

特定非営利活動法人 緑地雑草科学研究所 2026年3月発行

ニュースレター 21号

目次

報告事項	1
活動報告	1
会員投稿記事	3
編集後記	4



林床に咲くカタクリ(2026.3 秋田)

報告事項

令和 8 年度総会についてのお知らせ

令和 8 年度の総会につきましては、3 月 18 日に兵庫県中央労働センター小ホールにて実施し、全議案が可決承認となりました。会員の皆様におかれましては総会成立にご協力いただき誠にありがとうございました。

さて、昨年は例年に比べても外部からの依頼（研修会や現地指導への講師派遣や冊子の作成など）が増加し、これまで情報発信を継続してきたことに対し、雑草問題についての意識の高まりを感じた一年でした。今年も、講演会などのこれまでの活動に加え、各事業が連携した取り組みも計画し、ニュースレター等を通じ活発に情報発信に努めてきたいと存じますので、皆様にはご参加・ご参画いただけますようよろしくお願いいたします。

なお、過去の活動については当法人のウェブサイトの事業活動をご覧ください。ニュースレターのバックナンバーも掲載しております。

<https://www.bousou-ken.org/action.html#newsletter>

(事務局長 佐治健介)



活動報告

丘陵地農業支援センター研修会

2 月 24 日（火）、雑草インストラクターの豊田氏・佐治の 2 名で福井県あわら市の丘陵地農業支援センターにて依頼講演を行ってきました。今回の研修会の参加者は、認定

農業者、認定新規就農者など地域計画の担い手として認定されている方々で、それら耕作者の方々が草刈りに費やす負担を少しでも減らすことに繋がるよう、①農地周辺のや

っかいな雑草とその対処(佐治)、②草刈りの効率的な実施手法(豊田)、について解説を行いました。

当日はあいにくの天候で参加者は想定より少な目ではありましたが、新規就農したばかりの方も含め真剣に聞き入っている姿も見られ、彼らにとって今回の研修の内容が役に立てばと思うばかりです。

(佐治健介)



緑地雑草科学講演会「里山の植生管理とネイチャーポジティブ」

3月18日兵庫県神戸市にて令和8年度総会終了後に行われました講演会「里山の植生管理とネイチャーポジティブ」に参加しました。この講演は対面とオンラインのハイブリッドでの開催となり、対面では20名、オンラインで約30名の参加となりました。

農研機構西日本農業研究センター楠本良延様による本講演は、中山間里山地域に居住しています私としましては非常に身近な内容であります。農村の生物多様性は人間による働きかけが重要というのは最近実感してきており、私の居住している集落の周りでも未管理地が増えてきて植生の単一化が進んでいるのを感じ、それに伴い、クマ、イノシシ、タヌキ、キツネ、シカなどの野生動物の居住地周辺への出没が増えているのを感じます。

講演の中で触れられた、多様性を維持出来るように考慮された畦畔の草刈りの手法は私も農業者ですのでイネカメムシ類の防除の手法として取り入れていきたいと考えます。また長野、山梨県でのワイナリーのブドウ畑での共草栽培への取り組み事例などもあり、共草栽培への新たな一面について理解が深まりました。

里山地域に居住しています私としましても気になる部分でありますし、農業とも密接に関係することですので引

き続き雑草インストラクターとして関わりながら住みやすい里山地域になっていくように、課題解消へ向けて尽力していきたいと思います。

(雑草インストラクター 田嶋祐治)




会員投稿記事
株式会社 ロイヤルグリーンメンテナンス
代表取締役社長 小林 由幸
●会社の紹介

弊社は、ゴルフ場を中心に芝地の雑草対策を目的に、農薬の請負防除作業を行う会社です。創業は1970年で、57期目を迎えました。この間、ゴルフ場を取り巻く環境や芝地内の雑草・病害虫の変遷には大きな変化がありました。

創業当時は、芝に登録のある除草剤や殺虫剤、殺菌剤の種類が少なく、防除対象となる雑草病害虫に対応するには困難を極めた時期でもありました。その後、国内外の農薬メーカー様の努力もあり、多くの薬剤が芝に登録を取得してくださったお陰で、今日のゴルフ場の芝の維持が可能となっております。

我々の仕事は、個々のお客様の芝の状態を見極め、対象となる雑草に対して処方設計を行うことから始まります。予算提案を行う際には一年間の作業スケジュールの中での、散布対象区域、対象雑草・病害虫、処方、処理工程、作業別予算等の提案内容となります。

1 ゴルフ場の面積は、30ha から 100ha (30 万から 100 万㎡) と広く、コース内においても条件により雑草の種類や病害虫の発生状況が変わってきます。それらに対応するには、まずコース内の状況を見極めることが重要となります。

それとは別に、ゴルフ場は豊かな自然であると同時にメンバーが会員権を購入し、会社側が運営を任される社交場であり、利益追求をする場でもある特別な自然環境です。よって、倶楽部の競技内容や競技日程に合わせて、芝への安全を担保したなかでコース内の雑草コントロールを行う必要があるのです。例えば、墓地内の雑草防除でもお彼岸やお盆の前に雑草が無いように、逆算して処方や作業工程を組むのと同じです。

もちろん、ゴルフ場は競技だけでなくビジターの集客も重要なので、年間を通してコース内を雑草の無いきれいな状態にすることで、ゴルフ場の価値を上げることが我々の

使命となります。

●近年のゴルフ場における雑草防除の問題点

ゴルフ場の芝地においても、恒常化した異常気象の影響が多く場面で見られます。その代表的な事例が、土壌処理剤の残効切れの問題です。これまでは、基本的に除草剤は春と秋の2回処理でした。この数年は、特に秋処理における土壌処理剤の残効切れから、初春のスズメノカタビラの大発生が問題となっています。温暖化の影響が秋処理の土壌処理剤の分解スピードの速さに直結しています。

現在、その問題を解決すべく全国の防除業者が会員となっている「ゴルフ場防除技術研究会」では、秋の土壌処理剤の2回処理の実証試験を開始しています。すでに、会員の中では秋の2回処理により春まで残効を保ち、良好な結果を出しているケースが増えてきました。弊社でも、秋の2回処理によりスズメノカタビラを中心とした問題雑草対策もスムーズになりました。

今後は、試験や現場での成功事例をもとに多くのお客様への提案に変えていきたいと考えております。この対策は、従来から問題となっているスズメノカタビラやヒメクグのSU剤抵抗性の、解決の一助にもなると思います。スズメノカタビラやヒメクグの発生がなければ、SU剤の処理を行う機会も減り、SU剤抵抗性による雑草の増加も抑えられると考えます。

●防除業者とは

日本の芝地における雑草防除は、世界中の雑草防除の中でも最も難しい分野であると思います。永年作物であるイネ科植物の芝地内のイネ科雑草を中心に、気象変化の多い日本で安全性を担保しつつ、雑草を枯らしていかなければなりません。難しい分野の中で結果を出していくためには、多くの要素が必要となってきます。先ほどの除草剤の開発はもとより、処方のノウハウや現場でのその生かし方、ノ

ウハウのブラッシュアップ、散布者のスキルと後進への指導の継続、ノズルやタンク車の開発等がすべて揃って初めて、薬害の無い安全性を担保したなかでの結果が生まれてくるのです。薬剤設計は除草剤の知識があれば処方を読むことは可能です。しかし、それを生かす散布者が現場にあった散布を行うスキルがなければ結果は出ません。経験値のある散布者がいても、ノズルやタンク車がしっかりと撒けるハードでなければ結果は出ません。

最近では弊社もドローンを用いた本格的な散布に着手していますが、ドローン散布にはそれに加えて、ある程度のITスキルも必要となります。あと数年もすれば、多くの業種がAIに置き換わってくる時代です。我々の仕事は難し

くリスクもありますが、植物の声を聴き、そのうえで多くの選択肢の中からの確かな答えを導いていく過程が本当に面白いので、私は今の仕事が大好きです。同じ想いを抱いている方が、この緑地雑草科学研究所に参加されていると思います。是非今後もみんなの想いが多くの人に伝わり、この業界が楽しい業界になることを願っています。



株式会社 ロイヤル
グリーンメンテナンス



ゴルフ場防除技術研究会

編集後記・募集

3月も下旬となり、暖かい日が続いています。今年は桜の開花も早めのように、すでに周りで咲いている地域もあるのではないのでしょうか。また、地面に目を向ければ春を告げる雑草の開花もちらほらと見かけます。毎年の草との向き合い方も大変ではありますが、今年の雑草がどのような姿を見せてくれるか、少し楽しみです。

さて、ニュースレターも今号の発行で21回目となりました。次回、第22号(6月刊行予定)について、会員の皆さまのご協力を頂きたく、下記のコーナーへのご投稿をお願いする次第です。

- ・テーマ“困っている雑草”について、意見や技術情報など
- ・自由投稿：日頃の気づき、主張したいこと、技術・文献紹介等
- ・所属団体・企業の紹介

今号またはこれまでの記事についてのコメント、今後講演会や草と緑で取り上げて欲しいテーマや、雑草や雑草管理についての疑問・質問・感想なども歓迎します。

ご連絡先：佐治健介 (k-saji@bousou-ken.org)

ページ編集：宮井駿 (京都大学雑草学研究室院生)